

Gordon Research Conference, Conductivity & Magnetism in Molecular Materials に参加して

8月3日から5日間、アメリカ合衆国・メイン州ルイストン Bates 大学にて、Gordon Research Conference (GRC) の一環として Conductivity & Magnetism in Molecular Materials というテーマの国際会議が開催されました。Gordon Research Conference は、1931年にジョン・ホプキンス大学のゴードン博士が創設した会議で、アメリカ各地で開催される、全世界から第一線の科学者が集まる権威ある研究集会として知られています。

物性物理化学研究室からは、山下智史助教がスピン液体セッションにおいて、Phase Relation of Quantum Spin Liquid in $X[\text{Pd}(\text{dmit})_2]_2$ System というタイトルで招待講演を行いました。今回の発表は、本会議の特徴から35分発表+15分の質疑応答という十分な議論時間が確保された発表でした。この会議は、招待講演とポスター発表およびポスター発表の中から選ばれた短い口頭発表によって構成されています。国際会議でもよくある形式ですが、本会議中において発表された内容については、基本的に口外しないことが求められており、論文への引用など外部での使用が禁じられているということがアナウンスされます。また、国際会議にしてはめずらしく、発表のアブストラクト自体が存在しないという特徴があります。この規定により、論文発表前の最新の結果についての議論が可能であるという本会議の特徴が良く活かされるようになっていきます。招待講演は午前中と夕食後の夜7時30分からのセッションに分かれており、その間にはポスターセッションと長い空き時間があります。これらの時間を使い参加者同士はじっくりとディスカッションすることが出来るようになっていきます。日本との時差の関係で、夜の時間は眠気が強くなることもありましたが、講演の間隔が大きくあいているということから、それぞれのテーマに集中できました。

本会議が開催された Bates 大学は、アメリカ東海岸の名門リベラルアーツ系の大学として知られており、キャンパスは緑が多くとても良い環境でした。最寄りの空港は、メイン州のポートランド国際ジェットポートになりますが、国際線の乗り継ぎ等を考え、今回は成田からの直行便があるボストン空港から車で1-2時間かけて移動するという手段をとりました。途中にいくつか港町やビーチが見え、観光客がたくさんいるように思えました。Bates 大学のあるルイストンの町自体は海からは若干離れたところにありますが、ルイストン市自体は人口もあまり多くなく、Bates 大学が中心となっているような町でした。今回の滞在ではルイストン市の中心部に行くことはなく、ほぼすべての食事を大学の食堂でとりました。滞在場所もホテルなどではなく、全ての参加者が国際学生寮に

泊まるという本会議の伝統を踏襲した形でした。バンケットも大学内で行われ、参加者が全ての時間を共有する状況になっていました。大学食堂はこのような環境を考慮してか、毎日バリエーションに富んだメニューを日替わりで提供しており、バンケットでもステーキやアメリカ東海岸の名物であるロブスターなどが出されました。食堂やバンケットのスタッフは **Bates** 大学の職員ですが、発表会場の管理を含めた会議の運営は **GRC** から派遣されているスタッフによって運営されています。スタッフは会議運営について非常に手慣れており、開催者も含めて会議に参加している研究者は会議の内容に出来る限り集中できる環境が整っており、**GRC** の権威の高さがうかがえました。会議の規定から詳細についての報告は出来ませんが、招待講演はどれも興味深い内容で、この会議で招待講演として発表出来たことは貴重な経験でした。今後も、こうした世界最先端の研究と呼ばれるような研究を展開していきたいと思います。

(山下 智史)



Bates 大学のキャンパスの様子

(左：食堂 右：ポスター会場となったミュージアム)